

「 3月5日 」

池 田 康 人

このコロナで様々な物事をあきらめるしかなかった君たちに
そう簡単にかける言葉なんて見付からない。
本当に辛く、悔しかったと思う。

人類はこれまで、こんな難局を幾多も乗り越えてきたのだらう。
だから君たちにもできるはず。

今こそ変革のときだ。「できた・わかった」は過去—。
「疑問」が未来を創る。

これまでの当たり前を見つめ直し、君たちの若く、斬新なアイデアで
これからの新しい日常を創ってほしい。

「今の素晴らしい日常は、あの時、
僕たちの 私たちの『疑問』が生んだ未来なんだ。」

そう胸を張って言える日が来るのを信じて。

この難局をチャンスに—。

卒業、おめでとう。

これは私が昨年まで担任をしていた子どもたちに送ったメッセージです。彼らはこの春、小学校を卒業します。そう、学校内では、新型コロナウイルス感染症の影響を最も受けたと言ってよいであろう小学校6年生です。

もし、チームスポーツやちよ教育研究部での学びがなければ、おそらく私は、当たり前障りのない言葉で彼らに卒業のメッセージを送っていたことでしょう。

このメッセージが良いかどうかはさておき、私の中に純粹に湧き出たこの言葉は、コロナと向き合いながら研修を積めたチームスポーツやちよ教育研究部での学びが根底にあることは確かです。

さて、私の研修テーマは、教科担任制です。その導入については、様々な議論や意見が交わされていますが、私の率直な意見としては少し寂しい気もします。

なぜなら、四六時中を子どもと共に過ごしたくて志したこの仕事。算数だって理科だって外国語だって目の前の子どもたちと一緒に学びたい。そう思うからです。

しかし、教育界が抱える昨今の課題や教育現場の現状を考えると、有効なモデルチェンジなのも分かります。

様々な施策、方針に賛否両論あり。それは今後、絶えず教育に求められることは容易に想像できます。そこに生じるメリットもデメリットも。

ならば…

否定せず、批判せず、最大限のメリットを吸収し、ニュースタンダードを確立することが今の私たちに課せられた使命だと思います。否定や批判からは何も生まれません。

教科担任制であろうとなかろうと、GIGAであろうとなかろうと、目の前の子どもたちに、冒頭のようなメッセージを贈ることができる教師でありたい。そんな思いになれる毎日を過ごしたい、それをここに誓いたいと思います。

10年後、このレポートを読み返したときに、嘘偽りのなかったことを証明できるよう、明日からまた頑張ります。

令和3年3月5日

未来の私へ

今の思いはきっとつながっている